

稲作管理情報

管内の出穂状況及び病害虫防除について

1 出穂期について

◆あきたこまち◆

今年度は移植時期の気温が高かったことから順調に生育し、出穂が昨年より1週間程度早まっています。6月27日頃から出穂が始まり、7月5日時点で多くの圃場で穂揃いを迎えています。斑点米カメムシ類の防除を終えていない圃場はなるべく早急に薬剤の散布をお願いします。

◆コシヒカリ◆

4月中旬までに移植した圃場は出穂期が早まると考えられます。同一圃場内においても幼穂長にばらつきがあり、穂揃いが悪い可能性があります。4月下旬以降に移植した圃場の出穂期は平年並みの予想です。出穂が早い圃場では斑点米カメムシ類の加害が集中するおそれがあります。圃場を観察の上、適期防除をお願いします。

AgriLookに基づく出穂期予測（7月5日時点）

品種名	移植日	出穂期	成熟期
コシヒカリ	4月10日	7月9日	8月10日
	4月20日	7月15日	8月16日
	4月30日	7月22日	8月22日
	5月10日	7月26日	8月26日

普及課において観察した幼穂長

品種名	地名	移植日	幼穂長 [※]	出穂期予測
コシヒカリ	愛西市早尾町	4月19日	1.5cm	7月17日
	弥富市富島	4月20日	2~10cm	7月12~20日

※7月1日に計測した値

◆あいちのかおり SBL◆

現在のところ生育は順調で、草丈・茎数も十分に確保できています。出穂期は平年並み～わずかに早い予想です。5月上旬移植では7月15日頃、5月下旬移植では7月25日頃から幼穂形成が始まると考えられます。幼穂形成時の水不足は減収の原因となるため、出穂期の約1か月前を目安に中干しを終了してください。

分施栽培では、1 回目を出穂前 23～20 日（幼穂長 2～3mm）、2 回目を 1 回目施肥日の 10 日後を目安に、1 回あたり窒素施肥量 1～2kg を施用します。

AgriLook に基づく出穂期予測（7 月 5 日時点）

品種名	移植日	出穂期	成熟期
あいちのかおり SBL	5 月 10 日	8 月 17 日	9 月 25 日
	5 月 20 日	8 月 20 日	9 月 29 日
	5 月 30 日	8 月 25 日	10 月 6 日
	6 月 10 日	8 月 29 日	10 月 11 日

2 病害虫防除について

◆斑点米カメムシ類◆

愛知県農業総合試験場病害虫防除室の予察情報では、今年の斑点米カメムシ類は過去 10 年で 2 番目に多い発生状況となっています。特にカスミカメ類とシラホシカメムシの発生がやや多くなっています。普及課が行った発生予察ではシラホシカメムシが捕獲されています。また、圃場においてホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、カスミカメ類の発生を確認しています。

あいちのかおり SBL については畦畔除草によりカメムシの防除を実施してください。また、薬剤防除は遅くとも穂揃期までに薬効が現れるよう散布時期に留意してください。

◆ニカメイチュウ◆

令和 3 年に弥富市南部において多発したため、越冬した個体が多いと考えられます。弥富市に設置した誘殺灯における誘殺数は 6 月の上旬にピークがあり、昨年よりは少ないものの平年より多くなっています。また、弥富市内のコシヒカリにおいてニカメイチュウによる心枯れが散見されます。多発した場合は防除が必要となるため、今後の予察情報に注意してください。

◆イネ白葉枯病◆

令和 3 年度の県内のイネ白葉枯病の発生株率は過去 10 年で最も多くなりました。海部管内ではあま市、津島市、大治町で多発しました。また、愛西市内の一部圃場についても発生圃場がありました。イネ白葉枯病はサヤヌカグサ等の雑草や稲わらに寄生して越冬します。昨年発生した圃場は菌密度が高くなっている可能性があるため、出穂前 3～4 週間を目安に薬剤防除をお願いします。